



新年あけて最初のおたよりは、1年生の図書委員が記事の担当をしています。今年読書の参考にしてくださいね。



3年生の皆さんへ



終業式後もまだまだ本を借りられます

★貸出返却は各自の登校の予定に合わせて調整します

★返却が遅れた場合は連絡をします

★卒業式以降の貸出も相談に応じます



→入試のために必要な本や進学先からの課題の本など、

必要な本がある場合は気軽に相談してください

おすすめバイブル

『銀河鉄道の夜』宮沢賢治 著 ハルキ文庫

皆さんは、「銀河鉄道の夜」という本を知っていますか？教科書などにも載る有名なお話なので知っている人も多いと思います。

しかし、実際に読んだことがある人は少ないと思います。なので、皆さんに「銀河鉄道の夜」を読んでもらうべく、私が「銀河鉄道の夜」を読んで、ここが1番のおすすめポイントだと思ったことを紹介します！

それはズバリ、「銀河鉄道の夜」の中で常に問われ続ける「本当の幸いとは何なのだろう」という問いです。

これはこのお話のキーになっています。そしてこの問いは皆さんの人生の中でも大切な問いとなると思います。ぜひ「銀河鉄道の夜」を読んでこの問いについて考えてみてください。



本を返しましょう！

机の中に図書館の本はないですか？返却期限がきれている本は、すぐに返却ポストに入れていきましょう。



『100日間、あふれるほどの「好き」を教えてください』

永良サチ 著 スターツ出版

戦いと闘いの中で見えたもの

『同志少女よ、敵を撃て』逢坂 冬馬 著 早川書房

みなさんは、「復讐したいほど憎い人」がいますか？

昔、「何か」があって今でも恨んでいる。憎くて仕方なくてどうしようもない、なのに何も出来ない。ただただ恨めしいだけの人。でも、復讐したいほど恨めしい人なんて、そういないですよ。そもそも、その「憎い人」は、100%悪くて、全ての言動が悪で、手のつけようがないほどどうしようもない人間なのではないでしょうか。

「友達」はどうでしょう。楽しくお喋りする友達、一緒に遊びに行く友達、一緒にご飯を食べに行く友達、ゲームをする友達・・・顔も名前も分かる友達、顔も名前も分からない友達。どのタイミングで、どのような友達をつくるかはつくる人次第ですが、果たして今いる「友達」は本当の「友達」でしょうか？

「同志少女よ、敵を撃て」では、主人公のセラフィマが戦争を通して「本当の敵」や「本当の友達」とは何かについて向き合っていきます。

<あらすじ>



1942年2月7日 ソビエト連邦 イワノフスカヤ村。18歳の少女 セラフィマ・マルコヴナ・アルスカヤは、母のエカチェリーナとともに鹿狩りに出ている。いつも通りの日常だった。鹿を仕留めたセラフィマとエカチェリーナが村への道を歩いていた時、乱暴なドイツ語が平和だった村に「敵」性語である「ドイツ語」が響き渡った。村人は次々に殺されていった。赤軍の兵士に助けられたセラフィマは、女性兵士のイーナとともに「魔女の巣」へ行くこととなる。

—悲しみが怒りへ、そして殺意へと変わってゆく—

